

ナチヤ口ナ

経営学部
学生連合会
第3号

教授会の居直遠許すな!!
 大学立法の實質化=授業強行殺破!
 ロックアウト=検門体制殺破!

至明の学友諸君、執中 経営学部の学友諸君へ!
 現在明治大学当局は我々の斗争に対してロックアウト → 強行的授業再開を行
 ってきている。そして女学生に対しては、11月10日に4年生集会を午前中に一方的に行
 った。そして大学改革案なるものを冊子にして提示してきた。その集会の中で、現在教
 授会の行っている犯罪的な役割、さうしては教授一人またつりて、その運勢がと
 めれるやいなや、それはこれから授業の甲上詰り詰りして、この運勢がと
 えなれという、またに彼等の非論理的な、没主体的な意見を女学生の前にさすけだし
 た。その一方大学当局は、このような強権的な大学当局に対する弾劾案が行な
 われるやいなや、稟請してあった戒動隊に13名の学友を不当に逮捕させ、國家
 権力と一体化した運を又しても我々の前にあつたのであつた。
 我々、大学当局のこのような動きは、別に目新しいものではなく、大学立法の強行
 的成立、施行以来、全国の大学におりて存在しているこの明大版である。だが
 このことを一般的現象としてみても、東大斗争の歴史を振り返るに、
 斗争の圧殺、さうしては東大裁判にみられるブルジョワ的強権自身をも打ち捨てな
 ければ、自らの階級的利益を追求出来ず、又維持することもできないブルジョ
 ヲワ階級の現在の状況の中におりておられる。このことの明確な表現を我
 らは10、21國際反戦デー斗争におりておられた警備体制と、その側面援助部隊
 として登場した自警団、民向協力隊の動員の中におられることができたし、さうし
 ては大量逮捕、大量起訴という権力側の斗争の暴虐的運勢の中におられる。
 以上の現象の上におられる資本主義体制の矛盾の激化は、大学におりては、
 近代化路線の強権的進行と、その中におりて学生の特権を、一般の投票用紙の
 中におし止め、形式的民主主義の中に、我々人々を号子で進行してきた教育た
 おける、競争と専断の中に投入しよう計っている。このようにして我々は
 再度、大学立法の成立を、安部沖繩を軸として展開されるこの小がりの日帝の
 動向をみつけつつ、さうして我々の存在そのもののつてくる矛盾を明確に突き
 出していかねばならぬ。この矛盾は我々があつたやいなや、考えなくても決して
 なく、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、さうして、
 我々は「今」を斗争なくして「未来」を語ることはできない!
 我々は、斗争を永続化斗争として闘うこととして、現在の社会的矛盾、大学
 における斗争の持つべき意味を現実化 (= 実化) することができぬという二
 義を確認して、斗争を進めようである。